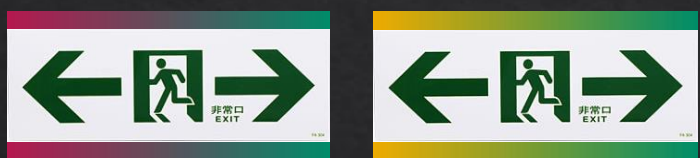


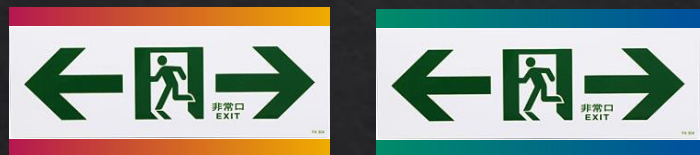
トーンを用いた色相差による誘導サイン(同明度・同彩度) 赤・青・緑・黄

ビビットトーン[v]



v赤-緑

v黄-緑



v赤-黄

v緑-青



v黄-青

v青-赤

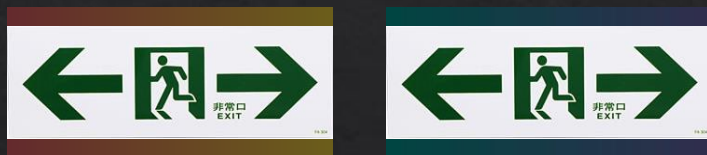
中明度・高彩度

ダークトーン[dk]



dk赤-緑

dk黄-緑



dk赤-黄

dk緑-青

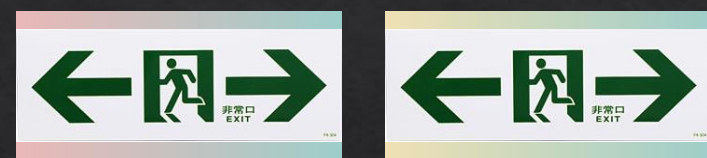


dk黄-青

dk青-赤

低明度・中彩度

ペールトーン[p]



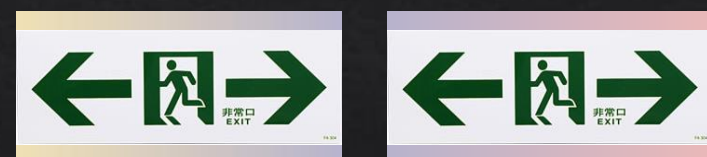
p赤-緑

p黄-緑



p赤-黄

p緑-青



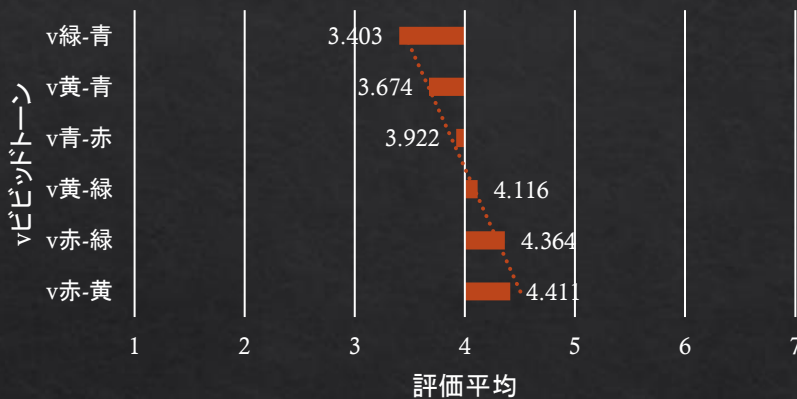
p黄-青

p青-赤

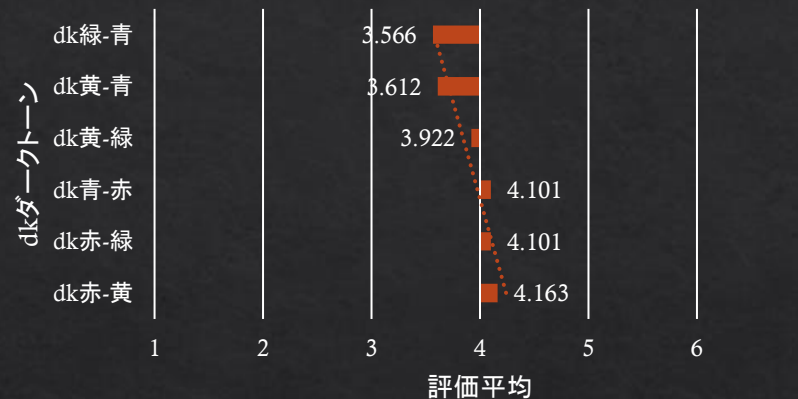
高明度・低彩度

色相差グラデーションの評価結果

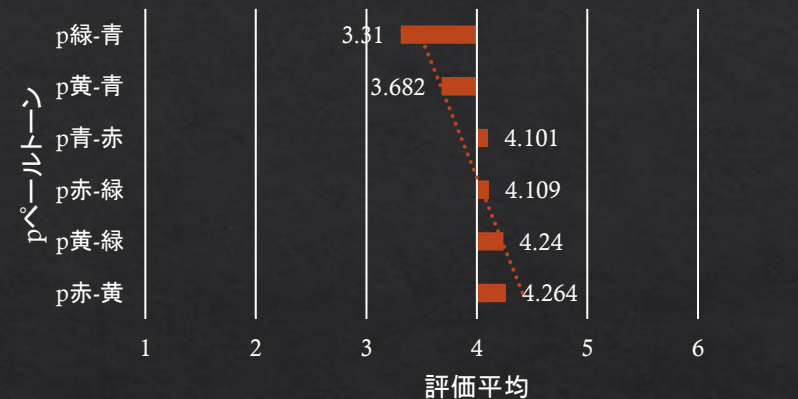
中明度・高彩度における色相差誘導



低明度・中彩度における色相差誘導



高明度・低彩度における色相差誘導



v青-赤 誘導方向=左



dk青-赤 誘導方向=右



p青-赤 誘導方向=右



v黄-緑 誘導方向=右



dk黄-緑 誘導方向=左



p黄-緑 誘導方向=右

- ・基本的に色相が緑・黄の方へ誘導される。ただし、緑-黄の場合は緑の方へ誘導される傾向がある。
- ・赤と青については、色味が判断しやすい場合は青に誘導される。明度によっては赤へ誘導されることがある。

グラデーションサインにおいて反転させた際の評価平均の比較

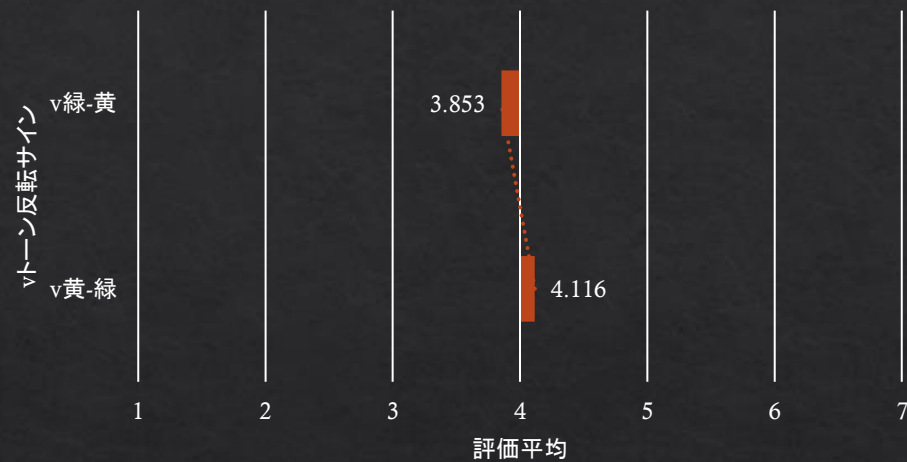
グラデーションサイン反転による効果比較(中明度・高彩度)



v緑-黄



v黄-緑



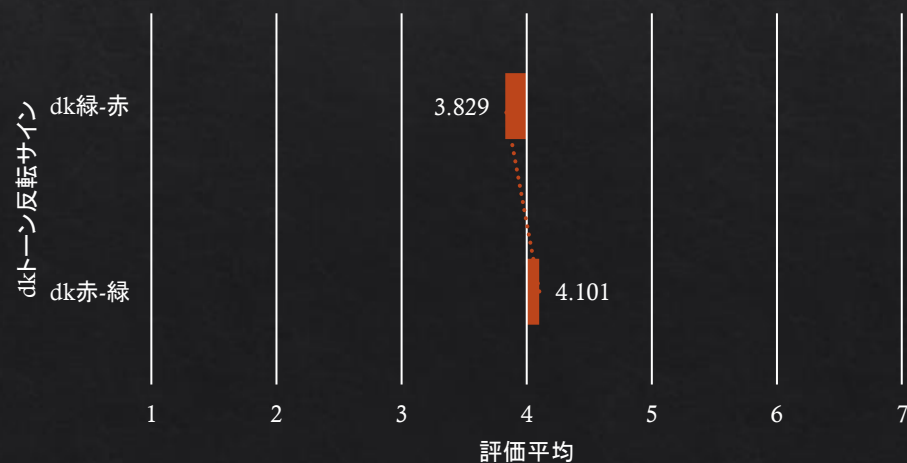
グラデーションサイン反転による効果比較(低明度・中彩度)



dk緑-赤



dk赤-緑



明度差



n白-灰(mGy)



n白-黒



dk赤-明度上昇

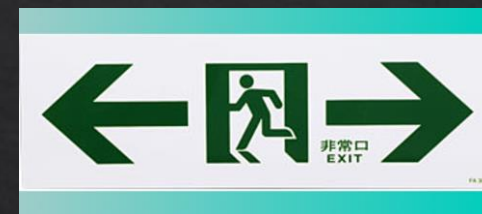


dk緑-明度上昇

彩度差



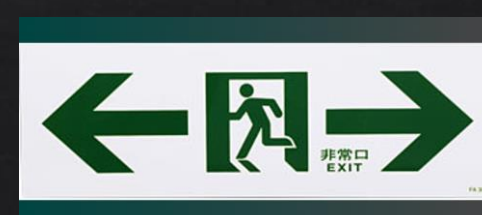
p赤-彩度上昇



p緑-彩度上昇



dk赤-彩度低下



dk緑-彩度低下



p赤-明度低下¹⁾

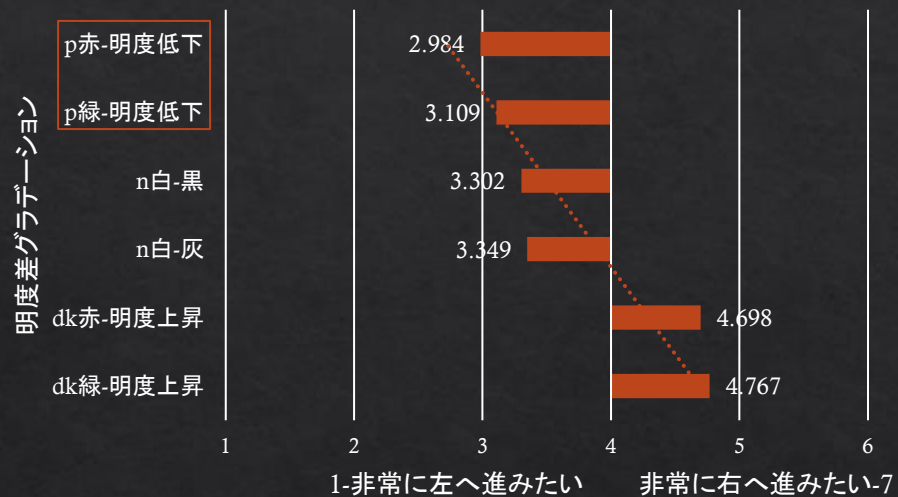


p緑-明度低下¹⁾

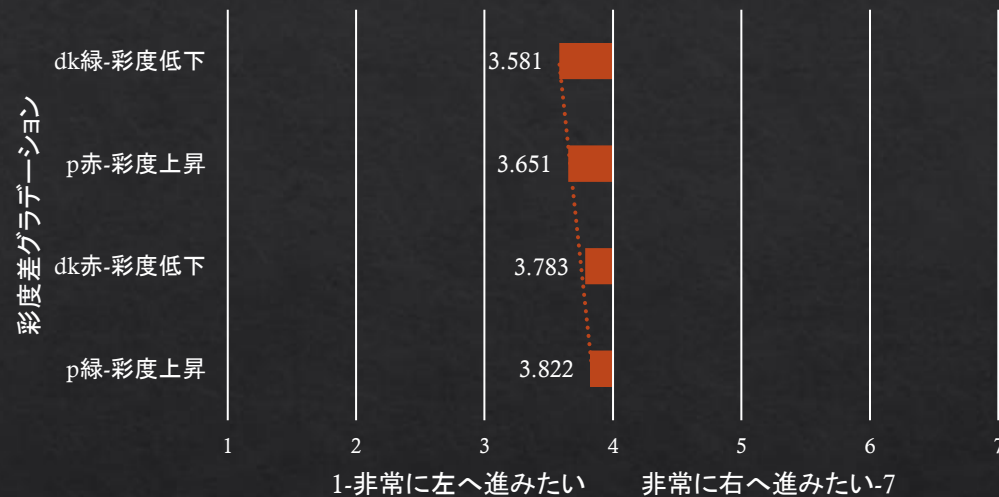
1)明度差に加えて、無彩色-有彩色の彩度差の2要素を含むグラデーション

明度差・彩度差グラデーションの評価結果

明度差による評価平均



彩度差による評価平均



n白-黒



dk赤-明度上昇



n白-灰(mGy)



dk緑-明度上昇



dk赤-彩度低下



p赤-彩度上昇



dk緑-彩度低下



p緑-彩度上昇

1) 明度差に加えて、無彩色-有彩色の彩度差の2要素を含むグラデーション

まとめ

基本的に人はグラデーションサインの両端の色の明度・彩度・色相の差を比較して行動判断を下している。
その際、明度差による誘導効果が一番強く、彩度・色相差による誘導効果は明度差の約半分程度である。

要素ごとの行動判断に与える影響の大きさ

・彩度差 < 色相差 < 明度差

明度・彩度・色相差について以下のことが言える。

- ・明度差 → より明るい方へ（黒 < 白）
- ・彩度差[無彩色含む] → 有彩色の方へ（黒、灰 < 有彩色）
- ・彩度差[無彩色含まない] → より彩度が低い方へ
- ・色相差[無彩色含む] → 黒 < 灰 < 赤 < 青 < 黄 < 緑 < 白

以上のことより、彩度差と明度差の要素が重複することで誘導効果が強くなるという結果から、高明度かつ低彩度の有彩色と黒色のグラデーションが人を効果的に特定方向（有彩色方向）へ誘導することが可能である。

Ex. p赤-明度低下 p緑-明度低下

